

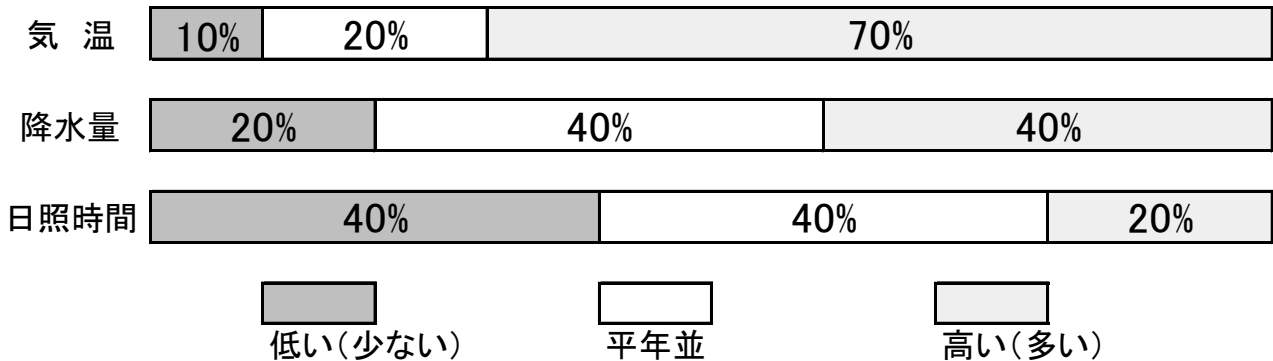
令和2年度 病害虫発生予察情報

発生予報第3号（6月）

令和2年5月29日
島根県

予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ	平年並～やや多い
		ニカメイチュウ	平年並
		イネミズゾウムシ	平年並
		セジロウンカ	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	やや少ない
		黒星病	やや多い
		シンクイムシ類	平年並～やや多い
		ハマキムシ類	平年並～やや多い
		ハダニ類	平年並～やや多い
野菜	カキ	カキクダアザミウマ	平年並
	タマネギ	ポトリヌ属菌による葉枯れ	多い
		べと病	多い
		腐敗病・軟腐病	やや多い～多い

中国地方1か月予報(5月30日～6月29日・広島地方气象台5月28日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.17%（平年5.04%）、捕獲数は0.02頭/50株（平年0.1頭）と発生量は平年並みである。
- ③ 越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（平年1.3%）と低い。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(2) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 やや遅い
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は4月第5半旬と平年に比べてやや遅い。5月第5半旬までの誘殺数は3頭(平年11.9頭)と平年に比べてやや少ない。
- ② フェロモントラップへの5月第5半旬までの誘殺数は44頭(平年62.7頭)と平年並みである。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯への飛来は0頭(平年12.1頭)と平年に比べてやや少なく、越冬量は平年に比べてやや少ないと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 やや遅い
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第3半旬と平年に比べてやや遅い。5月第5半旬までの誘殺数は7頭(平年33.3頭)と平年に比べてやや少ない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は30.4%(平年29.9%)、捕獲数は0.5頭/50株(平年0.61頭)と発生量は平年並みである。
- ③ 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は21頭(平年96.5頭)と平年に比べて少なく、今年の越冬量は少ないと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(4) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
飛来時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、県東部西部ともに確認されなかった。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.1%(平年1.6%)と、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生に助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生量は平年並みであるが、一部で多発園が認められる。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生に助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月4日と平年と比べてやや早い。
- ②フェロモントラップでのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。
- ③前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みで越冬量は平年並みと考えられる。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月22日と平年並みである。
- ②フェロモントラップでのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

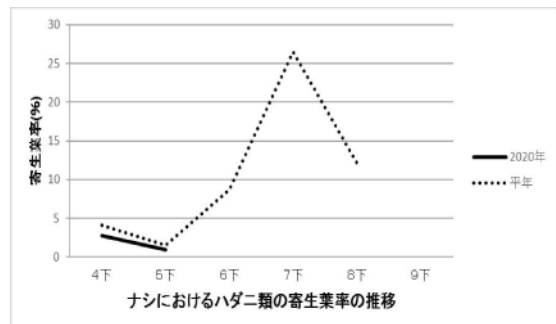
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量は少ない。
- ②5月下旬の巡回調査(安来市)では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は1.1%(平年1.5%)と平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月上旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
- ②5月8日の巡回調査では本種による巻葉被害が認められた。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率40.7%(平年12.2%)、発病株率3.0%(平年0.3%)と、発生量は平年に比べて多い。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生に助長的である。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 多い

予報の根拠

① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率81.5%（平年58.2%）、発病株率38.4%（平年13.9%）と、発生量は平年に比べて多い。

② 向こう1か月の気象は本病の発生に助長的である。

注) 令和2年度 病虫害発生予察情報 注意報第1号 参照。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率40.7%（平年38.2%）、発病株率4.1%（平年3.4%）と、発生量は平年に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は本病の発生に助長的である。

注) 令和2年度 病虫害発生予察情報 技術情報第1号 参照。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

島根県病虫害防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp